

## 「思い悩むな」

2015年08月28日

ルカによる福音書 12章 22節～28節。それから、イエスは弟子たちに言われた。「だから、言うておく。命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切だ。鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが、神は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか。あなたがたのうちのだれが、思ひ悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。こんなごく小さな事さえできないのに、なぜ、ほかの事まで思ひ悩むのか。野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである。信仰の薄い者たちよ。

上記の御言葉はよく知られた慰め深い御言葉である。そして、この言葉によって重荷を軽くされた人はどれほど多くいただろうか。主イエスは弟子たちに「だから、言うておく。命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切だ」と語られた。貧しい宣教団であった弟子たちは食べ物に関し、あれこれの選択肢はなかった、衣服に関しても「着た切り雀」ではなかったかと思う。要は、思ひ悩むな、命、体は神が必ず守ってくださると言おうとしている。このことを言うために、鳥と野原の花の例を上げている。マタイ福音書は「空の鳥」であるが、ルカ福音書は「鳥」としている。鳥は日本でも縁起の悪い鳥とされているが、イスラエルでも汚れた無価値な鳥とされていた。その鳥に関して「鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが、神は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか」と言っている。野原の花に関して「野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである」と言っている。鳥や野原の花は与えられた命のままに、思ひ悩むことなく生かされている。価値あるあなた方はなおさら、神の守りの中にあるではないか。これらの例えから「あなたがたのうちのだれが、思ひ悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。こんなごく小さな事さえできないのに、なぜ、ほかの事まで思ひ悩むのか」と諭している

ストレスの多い時代に生きている。うつ病になり、胃に穴をあける人は多い。マタイ福音書では、この勧めの最後に「だから、明日のことまで思ひ悩むな。明日のことは明日自らが思ひ悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である」と、思ひ悩む苦勞のない日はないが、その苦勞はその日だけにしなさいと締めくくっている。パウロはフィリピ書 4章 6-7 節で「どんなことでも、思ひ煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう」と、思ひ煩いを神に打ち明け、神の平和に与りなさいと書いている。(続く)